

### 目的・目標

- カリキュラム・マネージャーを中心とし、行事交流、日常的な交流にとどまらない、交流活動及び共同学習を実施する。
- 特別支援学校教職員の専門性を生かしながら、交流及び共同学習の在り方を見直し、全ての児童の教育活動の充実を図る。
- 現行の教員配置にこだわらず一人一人の専門性を生かした指導体制の構築と「ともに進む」教職員の意識向上を目指す。
- こうした取り組みを市内はもとより、各地域に情報発信することで、インクルーシブな学校運営モデルの拡充につなげる。

### 学校運営連携校

秦野市立末広小学校  
神奈川県立秦野支援学校(対象:知的障害)



併設型

カリキュラム・マネージャー

現末広小学校 総括教諭 特別支援学級主任

## 取組概要

- ・ 秦野市では「水と緑に生まれ、誰もが輝く暮らしよい都市(まち)」を都市像に掲げ、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現を目指している。
- ・ 平成28年に末広小学校の校舎の一部に県立秦野養護学校(現秦野支援学校)知的障害教育部門小中学部を開設し、日常的な交流や各教科等での交流及び共同学習を行っていた。
- ・ 交流及び共同学習を発展させるため、現在進めている交流及び共同学習について、教育課程上の位置付けやねらい等を明確にした指導案として記録を残し、「何を」「どのように学ぶのか」について児童・生徒の発達段階や、指導内容を踏まえた指導形態・指導体制・評価方法も含めたカリキュラムの構築を進めた。
- ・ 各学年ごとに、両校間の教員が、年間指導計画を作成し、交流及び共同学習を実施した。**年間40回を超える交流及び共同学習**を行うことができた。
- ・ 学校運営連携校間で、**中休み以降の時程を揃える**ことで、交流及び共同学習を行いやすくするとともに、休み時間の交流にもつなげた。
- ・ **交流及び共同学習の各授業の記録を指導案として残した**。小学校、支援学校それぞれの「本時の目標」と「交流の目標」を定め、ねらいをもって指導を行えた。
- ・ 秦野支援学校と末広小学校では、**毎朝打ち合わせ**をし、当日の予定を確認し、日常的な関わりを持つことによって、職員間のつながりが強くなった。
- ・ 両校間で、各学年の教員が直接連絡を取り合って、授業準備をすすめることができた。両校の教員が顔なじみになっており、お互いに指導の相談をし合える関係性を築いた。
- ・ 末広小学校の児童からは「同じでいいじゃん」「一緒に遊びたい」という声が聞かれ、現1、2年生は、入学時から支援学校との交流を行っており、一緒に授業することがあたりまえと、自然に捉えられている様子がみられた。この児童たちが大きくなって行った先に、どのような姿が見られるか楽しみである。

## ①交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

### <交流及び共同学習の発展の方向性・ねらい>

現在進めている交流及び共同学習について、教育課程上の位置付けやねらい等を明確にした指導案として記録を残し、「何を」「どのように学ぶのか」について児童・生徒の発達段階や、指導内容を踏まえた指導形態・指導体制・評価方法も含めたカリキュラムの構築を進めた。

#### ○各学年ごとに年間指導計画を作成し、交流及び共同学習を実施した。

- ・1年生【生活科】学校探検、なつがやってきた、いきものなかよし、【体育】一緒にからだを動かそう、いろいろなうごきづくり
- ・2年生【学活】交通安全教室【国語】としょかんへ行こう【生活】うごく うごく わたしのおもちゃ
- ・3年生【社会】まちの様子、火事からまちを守る【図工】うつつてふえるよでこぼこさん
- ・4年生【理科】季節と生物(春)、(夏)、(秋)、(冬)【図工】つけて、のばして、生まれる形【社会】ごみのゆくえ(クリーンセンター見学)【総合】考えよう!身近な福祉
- ・5年生【体育】とび箱運動【社会】未来をつくり出す工業生産(日産わくわくエコスクール)
- ・6年生 運動会の鼓笛隊見学
- ・すえひろ級【生活単元】野菜を育てておいしく食べよう【生活・総合】すえひろっ子アワードを作ろう【図工】なかよしの木の葉に色を付けよう、クリスマスリースを作ろう【音楽】和太鼓に親しもう

#### ○指導内容・指導方法の工夫

- ・学校運営連携校間で、中休み以降の時程を揃えることで、交流及び共同学習を行いやすくするとともに、休み時間の交流にもつなげた。
- ・前年度のうちに、両校間の学年ごとに話し合い、交流および共同学習の年間指導計画を策定し、計画をもとに交流を実施することができた。
- ・カリキュラムマネージャーが指導案のひな形を作成し、交流及び共同学習の各授業の記録を指導案として残した。小学校、支援学校それぞれの「本時の目標」と「交流の目標」を定め、ねらいをもって指導を行えた。「本時の展開」に加え、「配慮事項」「留意点」「気がついたこと」を、授業の事前事後に確認し指導案に記録している。記録を参照することで次年度の授業に対する見通しが立つこと、また授業方法・形態等の改善手立てになり、最終的に連続性をもったカリキュラムへ繋げることができると考えている。



## ②現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

### ○職員間の協力・連携

- ・末広小学校の4月の職員会議において、秦野支援学校末広校舎の職員が挨拶し、お互いに知り合う機会を設けた。
- ・秦野支援学校末広校舎のリーダーが、毎朝末広小学校の教務主任と打ち合わせをし、当日の予定を確認し、「今日の秦野支援」という、秦野支援学校との交流の予定を職員室廊下に掲示した。→日常的な関わりを持つことによって、職員間のつながりが強くなった。
- ・1月に両校の教員(58名)を対象に研修会を行った。今年度までの交流及び共同学習を振り返り「成果」「課題」「これからについて」を協議した。→両校の教員間のコミュニケーションが図れ、次年度に向けて課題や展望を共有し意識が高まり、さまざまな取り組みの案が出され、意欲的な意見が数多く出された。

### ○授業実施

- ・末広小学校の授業に秦野支援学校の児童が参加する場合は、末広小学校の教員がメインティーチャーとして授業を行い、秦野支援学校の教員がサブティーチャーとして支援した。→秦野支援学校の児童は落ち着いて授業に参加できた。
- ・末広小学校1年生対象に行った学校探検の授業では、秦野支援学校の教員がメインティーチャーとして授業を行った。
- ・両校間で、各学年の教員が直接連絡を取り合って、授業準備をすすめることができた。両校の教員が顔なじみになっており、お互いに指導の相談をし合える関係性を築いた。

### ○施設面

- ・末広小学校の体育館、多目的室、図書室等を秦野支援学校の授業でも使用できるように調整した。



本事業  
の成果

## ○授業

- ・「交流及び共同学習」の回数が令和5年度と比較して大幅に増えた。
- ・1年生では、生活科と体育科を軸に、複数回共同学習を行うことができ、4年生では、理科を軸に春夏秋冬の季節と生物の授業を一緒に行うことができた。
- ・前年度に立てた年間計画に加えて、学年だけでなく委員会担当などのそれぞれのポジションで考える職員が増え、学校同士の関わりを考えるようになった。
- ・末広小学校の教員から交流及び共同学習に関する提案が増加しており、職員の意識の高まりがみられた。
- ・カリキュラム・マネージャーが中心となり指導案を全ての授業で残すことができた。

## ○児童の姿

- ・支援学校の児童は、交流及び共同学習の回数を重ねることによって、小学校での活動に見通しを持ち、参加できるようになってきた。普段、小集団での活動が難しい児童も、整然と行われている授業に参加する中で、落ち着いていられる場面がみられるなど、共同学習の効果が見られてた。
- ・末広小学校の児童からは「同じでいいじゃん」「一緒に遊びたい」という声が聞かれ、現1、2年生は、入学時から支援学校との交流を行っており、一緒に授業することがあたりまえと、自然に捉えられている様子がみられた。この児童たちが大きくなって行った先に、どのような姿が見られるか楽しみである。

課題と  
今後の  
展望

- ・一緒にやれる授業を探ってみようという職員の気持ちを大切にして授業を増やしている段階であるため、交流及び共同学習が、全体として系統だったものにできていない。
- 来年度は学年ごとに、系統性を持った指導計画を策定できるように、取組内容を検討する。その際、指導形態・指導体制・評価方法をさらに検討したうえで、お互いの専門性を生かしながら授業を行っていき、成果を記録として残す。
- ・今年度は、事業の効果検証という点での記録が十分行えなかった。
- 「A活動のねらいが達成されているか。」「B両校の児童にどのような影響がみられるか。」「C両校の教職員の意識の変容、スキルの向上はみられるか。」「D学校関係者はどのように評価しているか。」等の観点から検証できるように、記録を残していく。分析結果を市内外の他の学校に情報発信し、持続可能な取り組みを発展させられるように取り組んでいく。